

環境配慮し特殊舗装

茨城の次世代SSで施工

NIPPO



廃プラスチックアスファルト
舗装（手前左）、太陽光発電
舗装（手前右）、パーフェク
トクール（奥右）（NIPPO
提供）

NIPPOは、3月29日に営業開始したENEOSの次世代サービスステーション（SS）「ENEOSプラットフォームひたち野うしくSS」（茨城県牛久市）に、環境に配慮した特殊舗装を施工した。廃ペットボトルを再利用した「リペットペーパー」、路面の温度上昇を抑える遮熱性舗装「パーフェクトクール」、研究開発中の太陽光発電舗装などを採用。SS敷地内への太陽光発電舗装は国内で初めて。



テープカットする吉川芳和会長（右奥）（NIPPO提供）

SSには給油施設に加え、飲食店やコインランドリーなどさまざまな店舗を併設する。リペットペーパーは廃棄ペトボトルなどをアスファルト改質剤として使用し、

一般的なアスファルト舗装よりも耐久性を大幅に向上。SS内の舗装で500ミリのペットボトル約7000本分を使用している。

パーフェクトクールはアスファルト舗装の表面に太陽光内の赤外線を反射する遮熱性塗料を塗布し、路面温度を10〜13度低減する。

太陽光発電舗装は、下地であるアスファルト舗装の変形に追従できるようにアモルファスシートを使っているのが特徴、発電した電力は施設内の照明などに利用している。

ENEOSが開発した「廃プラスチックアスファルト舗装」も施工した。骨材に電線被覆材の廃材を1

00%使用し、二酸化炭素（CO₂）排出量を従来舗装よりも約40%削減できる。SS内の舗装で約1・2トンのCO₂削減効果がある。NIPPOは今後も、環境に配慮した工法を積極的に展開していく。

ENEOS 茨城に次世代SSS

NIIPPO 舗装に環境配慮技術

ENEOSは、環境と地球に寄り添う次世代サービス「ENEOSプラットフォーム」をオープンした。同施設は、給油だけでなく、「車と合わせて心も体もリフレッシュ」をテーマに、敷地内にさまざまな業種が同居している。3月29日に茨城県牛久市内にオープンした実

証第1号店である「ENEOSプラットフォームひたち野うしくSSS」には、ドトールキッチンやchocozAPなど6店舗を備えている。同施設の建築工事を担ったNIIPPOは、地球に優しい舗装技術を取り入れ、施



次世代SSSの全景

工や供用中の環境配慮に寄与している。廃ペットボトルを再利用した「リ・ペットペーパー」、路面の温度上昇を抑える遮熱性舗装「パーフェクトクール」を採用。また、研究開発中である、路面で発電する「太陽光発電舗装」を試験的に導入した。

太陽光発電舗装には、アスファルト舗装の変形に追従できるようにアモルファス（結晶構造を持たない物質の状態）シートを使っている。発電した電力は施設内の照明などに利用する。リ・ペットペーパーは、廃ペットボトルなどをアスファルトの改質剤に活用しており、アスファルト舗装1平方メートルに500ミリのペットボトル15本が使われている。改質剤により、舗装の耐久性が10倍以上高まるという。パーフェクトクールは、アスファルト舗装の表面に遮熱性塗料を塗布することで、従来のアスファルト舗装と比べて路面温度を10〜13度低減できる。

ENEOSが開発した、CO₂を従来比で40%削減する「廃プラスチック舗装」も併せて施工した。